

<第36回卒業証書授与式式辞>

飛鳥の里へ降り注ぐ日差しが日に日に暖かさを増し、ここ高取・佐田の丘にも、春の訪れが感じられる今日の良き日、本日ここに令和3年度奈良県立高取国際高等学校第36回卒業証書授与式を挙行いたしましたところ、新型コロナウイルス感染症の収束がまだ見えぬ中、また、ご多忙にも関わりませず、本校育友会・会長、柘田博功様、文化体育後援会会長・塩田綾子様、たかとり会・会長、黒田浩子様のご臨席を賜りました。高いところからではありますが、衷心より厚くお礼申し上げます。

さて、令和の幕開けを直前に控えた平成31年4月、沢山の希望と夢を携え、ここ高取国際高校の正門へと続くうぐいす坂を上ってきた第36期生の皆さん。皆さんは、「さとく きよく ゆたかに たくましく」の校訓のもと、自律した真の国際人の育成を目指した本校の課程を、見事に修了されました。新たな次のステージへと飛び立っていく233名の卒業生諸君、卒業おめでとうございます。本校を巣立っていく皆さんに、心から御祝いと餞の言葉を述べたいと思います。

残念ながら、今日のご承知の通り、新型コロナウイルス感染予防を徹底するため、式の所要時間を短縮して進めています関係上、卒業生の皆さんのために準備したメッセージは学校新聞「みずき」に、また、ハレの日のお祝いとして贈りたい言葉は、ホームルーム教室にて、後ほど担任の先生から配布いただきます。ここではその一部のみを紹介して式辞とします。

卒業式に際し、皆さんへ餞の言葉として贈るのは「かけがえのない今という時をつなごう」という言葉です。私は皆さんに「つなぐ」という言葉を大切にしたいと、折に触れて伝えてきました。卒業生の皆さんの中には、何を当たり前な事を今更、と思われた人もいるかも知れません。

校長室だより4月号でお伝えした、「本校の伝統をつなぐ」、「昨日・今日・明日をつなぐ」、そして「人と人をつなぐ」ためには、とりもなおさず、かけがえのない今という時を精一杯生きることしか叶えられません。また、この2年間続くコロナ禍において、それまでは当たり前であったことが、突然目の前から消えてしまう経験を、皆さんも、そして私もしてきました。分散登校やオンライン授業、夏休みの急な延長によって年末がとても慌ただしくなったこと。何より、修学旅行の行き先や日程が大きく変更されたこと、毎日友達と会って何気ない話をすることや、部活動で切磋琢磨する時間も、突然なくなることがありました。だからこそ、当たり前目の前にあるような今、このかけがえのない今という時を精一杯積み重ねていってください。

ご列席の保護者の皆様、卒業式に当たり、改めてお子様のご卒業を心から御祝い申し上げます。3年間、お子様とご苦勞をともにされたこと、並びに高取国際高校へのご支援・ご協力を賜りましたことに心からの敬意と感謝を申し上げます。

また、本日は新型コロナウイルス感染予防のために、誠に遺憾ではありますが、同居のご家族お一人のみの出席をお願いしました。ご協力をいただきありがとうございます。あらためてお詫びと御礼を申し上げます。

結びになりますが、この高取国際高校がこれから次の時代へと繋がっていきますよう、後に続くもの達へのご支援をお願い申し上げます。第36期生、卒業生の皆さんの未来が「笑顔と笑い声が一杯に溢れ輝く時」となるよう祈念し、式辞といたします。

令和4年3月1日

奈良県立高取国際高等学校長
渡部 憲一